



No.448

発行 社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>

社団法人名古屋工業会会誌

ごきそ

2012 7-8 月号

【第46回通常総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

議事内容

特別講演 白磁窯の技術史

【OB特別講演会】

モノづくり立国 日本の再生

【特別講演】

白磁窯の技術史

代議員候補者募集



平成24年度 名古屋支部の“総会と見学会”

平成24年度名古屋支部の総会と見学会を次の通り開催致します。

会員の皆様（家族同伴可）日頃の労を温泉で癒してみませんか。

記

1. 日 時：平成24年 9月15日(土) 8:30栄テレビ塔北 観光バス駐車場に集合
2. 行 程：栄（テレビ塔北）(8:45) → 昼神温泉 湯元ホテル阿智川（総会・昼食・希望者入浴可）^{*1}
(11:00～13:40) → そばの城【そば打ち体験&ショッピング】^{*2} (14:30～15:30) →
お菓子の里飯田城【ショッピング】(15:50～16:20) → 栄（テレビ塔北）(18:25頃)
^{*1} 参加費に昼食、入浴料を含みます。
^{*2} 2食分作ってお土産にできます。
3. 会 費：1名 6,000円（同伴家族も同じ値段、ただし小学生以下は半額。）
4. 募集人数：約120名（先着順）
5. 申込先：次の単科会連絡幹事まで。締切は8月10日(金)

C E 会 山盛 康 (C③) TEL 052-691-5351
光鯨会 宇佐美智伯 (A⑥) TEL 052-704-6137
巴 会 杉山 耕一 (M⑥) TEL 0562-55-7772
電影会 三宅 正人 (E60) TEL 090-3581-4472
双友会 泉地 正章 (W44) TEL 052-837-7271
緑 会 大橋 聖一 (D45) TEL 0533-87-3741

名窯会 道家 清正 (Y30) TEL 052-912-3492
名晶会 小山 敏幸 (K61) TEL 052-735-5124
計測会 大鑄 史男 (F49) TEL 052-735-5393
経友会 仁科 健 (B50) TEL 052-735-5396
情友会 犬塚 信博 (J62) TEL 052-735-5050
翼 会 小鹿 良雄 (K23) TEL 0561-72-4071

支部連絡先：

橋本 忍（名古屋工業大学環境材料工学科内 名古屋工業会名古屋支部庶務）

TEL：052-735-5291 ／ FAX：052-735-5281

E-mail：gokisonagoya@gmail.com

※各単科会幹事様はメールにて参加者情報をご連絡いただけますと幸いです。

《 総 会 と 見 学 会 の 注 意 事 項 》

1. 当日および前日のキャンセルは、参加費の払い戻しができません。
2. ご担当者は、参加者名簿を、事前に支部連絡先まで必ず提出してください。
3. 開催に関するお問い合わせ、緊急の場合など、開催直前のご連絡は、以下の旅行会社までお願いします。

旅行社：名鉄観光バス(株)名古屋支店

担 当：本村 美雪

住 所：名古屋市中川区中京南通り2-7

電 話：052-354-6909

FAX：052-363-0210

表紙写真説明

「新しくなった大学会館」

撮影者 名古屋工業会 事務局

第46回通常総会報告

社団法人名古屋工業会第46回通常総会が、平成24年5月26日(土)午後2時から高橋実学長のご臨席を賜り、会員168名が出席し中日パレスにおいて開催された。

総会に先立ち、23年度にご逝去された会員物故者のご冥福を祈り、出席者全員で1分間の黙祷を捧げた。

総会は二枚常務理事の司会で篠田理事長の開会挨拶に始まり、高橋学長の会長挨拶の後、篠田理事長の議長で議事を行い、提案された議案を異議なく承認された。

次に総会行事として、理事長から叙勲・褒章受賞者に記念品、母校退職職員に感謝状と記念品、会員で卒業満70・50周年の出席者に記念品の贈呈があった。なお、対象者のうち欠席者及び卒満対象者で総会委任状の提出者には、後日記念品を送付することとした。

その後開催された特別講演会は、(株)ノリタケカンパニーリミテッド顧問の山田陽一氏から「白磁窯の技術史—近代から現在までの技術革新」という演題で講演をいただき、参加者に大変好評であった。

会場を移して17時から懇親会が開催され、木越副理事長の司会で北村学長特別補佐の挨拶の後、水谷前副理事長の乾杯により開会された。

杯を交わしながら、名工大管弦楽団による演奏の中で名刺交換等旧交を温めるうちに時間も過ぎ、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い阿部副理事長の締めにより閉会とした。

なお今回受付において大学基金への募金箱を設置し、寄附をお願いした結果、72,000円が集まったので、「工業会総会出席者有志」の名称で大学基金へ寄附を行った。御協力ありがとうございました。

第46回通常総会次第

1. 理事長挨拶 篠田陽史 社団法人名古屋工業会理事長
2. 会長挨拶 高橋 実 国立大学法人名古屋工業大学学長
3. 議 事

(決議事項)

- 第1号議案 平成23年度事業報告及び決算報告について
- 第2号議案 平成24年度事業計画及び予算案について
- 第3号議案 役員の改選について
- 第4号議案 一般社団法人への移行認可申請について
- 第5号議案 その他

4. 行 事

イ 叙勲・褒章等受賞者へ記念品贈呈(敬称略)

渡辺良彦 A34 山口響起 M28 公平珠躬

ロ 名古屋工業大学退職教職員へ感謝状と記念品贈呈(敬称略)

藤原 修 辻 俊博 山本幸司 山崎良比古 田坂修二
中井照夫 林 昭二 山本和広 川口 健 蛭子博志
清水二三夫 武川謙一 伊藤弘和 本田順一 鈴木香代子
丹羽 弘 井村仁美 加藤千代一 藤本靖孝 栗本恭志 今枝保子

ハ 名古屋工業大学卒業満70、60、50周年の会員へ記念品贈呈(敬称略)

(70年—昭和17年卒) —34名

C 水野與師増 始5名 A 亀谷栄蔵 始6名 M 伊藤 博 始11名 E 野村 彰 始5名
W 石川欣造 始4名 ㊤ 田中 壮 始3名

(60年—昭和27年卒) —0名

該当者なし

(50年—昭和37年卒) —104名

C 平林清和 始13名 A 鍋島三郎 始7名 M 水谷忠雄 始24名 E 野田 昭 始15名
W 西尾弘之 始14名 D 林 滋雄 始12名 Y 前田成治 始9名 K 伊藤和紀 始10名

ニ 特別講演

講師：山田陽一 氏 (Y44) 株式会社ノリタケカンパニーリミテッド顧問 (元専務取締役)

演題：「白磁窯の技術史 — 近代から現在までの技術革新 — 」

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

社団法人名古屋工業会

理事長 篠田 陽史 (M33)

社団法人名古屋工業会としての、記念すべき最後の総会であります第46回通常総会を開会するに際し、高橋学長には本会会長として、また先生方にはご来賓として、多数ご臨席を頂いております。また会員の皆様には北海道から九州まで多事多難な中、本総会に参集いただき誠にありがとうございます。

本総会は現定款による最後の総会となりますが、本日提案いたします議案は極めて重要な内容を持っております。

本日審議いただく議案は第1号議案として平成23年度事業報告及び決算報告、第2号議案として平成24年度事業計画及び予算案、第3号議案として役員の任期満了に伴う新役員の選出、第4号議案として一般社団法人への移行認可申請、第五号議案その他となっております。

審議案の内容につきましては、二枚常務理事より各議案審議の際、詳しく説明いたしますが、ここでは4年間の活動とその成果を議案と関連付け、述べさせていただきます。

平成20年5月理事長に推挙された際、私に課せられたミッションは新法人法に基く名古屋工業会設立であり、そのミッションを進めて行く中で、どうしても解決または思い切った前進が求められている2つのテーマがはっきりしてきました。

2つのテーマは、次の時代、母校と新しい名古屋工業会の益々の発展のための、新しい事業目的の決定と組織の変革であり、これはすでに昨年の総会で皆様のご承認を得た、新定款案で事業目的の第一を母校の支援に置くこと、及び新組織が決定しております。しかし事業目的の達成、組織の変革のためには、会員組織率の向上と確実な卒業生名簿の管理が不可欠であり、この2件は現在の名古屋工業会でも永年の課題で

ありましたが、新定款の理念を達成してゆく為には抜本的な改革を避けて通る事は出来ません。

この改革の進展状況は、新年挨拶「新しい名古屋工業会に向かって」で述べておりますが、特に組織率の向上については驚くべき結果を得ることが出来ました。

さて以上の活動と成果について各議案では第1号議案平成23年度事業報告及び決算報告では、平成24年度学部入学者より、入学時の諸納金一括納付を実施し、終身会員入会者992名約91%の結果となり、新入生全員入会に向け大幅に前進することが出来ました。大学と一体となつての活動の成果であります。

第2号議案平成24年度事業計画及び予算案では、卒業生名簿は大学管理となり、24年度入学者より入学時に生涯メールアドレスが渡されました。このアドレスは学生生活の中でも重要な役割をはたし、卒業後も大学、工業会、単科会との交流に無くてはならないものになります。

我々卒業生は名古屋工業大学卒業生連携室のホームページから入手でき、6月よりスタートします。

新定款の事業目的、母校の支援ですが、24年度の予算案では大学の支援事業に約4,550万円を当てました。これは全事業費の48.8%に当た



り、23年度に対し2,880万円の増となります。

財政面で大学を支援出来る様になるのは大学、工業会の歴史の中で初めてのことです。

第3号議案役員の改選ですが、理事長再任を前提に私「篠田陽史」が理事候補に載っております。新年挨拶でも、出席した各地の支部総会の挨拶でもこの総会をもって退任するむねお話ししてきました。

新しい名古屋工業会への移行ミッションの目途が付き、永年の懸案である本会入会率の大幅向上、卒業生名簿問題もまずはスタート、我ながらいい花道が出来たとほっとしていたのが実感ですが、新理事長候補の方が一身上の都合で急に辞退となり、総会を間近に控えもはや猶予もならず、そのうえ本会会長の高橋学長の文字通りの膝詰の要請で引受けざるを得なくなった次第です。

今回の役員の場合、新法人移行に伴う特殊な事情があります。

理事長、4名の副理事長、常務理事に就任された方は、新法人法により、法人発足時最初の役員になることが定められています。再任された以上は最大の努力を払う覚悟であります。

第4号議案一般社団法人への移行認可申請ですが、昨年本総会で定款案が承認され、移行に向け愛知県と折衝を続けてまいりましたが、主要部分の変更はなく事前調整は終了しました。

旧法人から新法人へ切目なく移行するために停止条件付決議が必要となりました。これが先ほど述べました新法人発足時の最初の役員を予

め定款に附則として加える事であります。

以上述べてまいりましたが議案審議に際しご留意いただきますようお願いいたします。

さて次の理事長に引き継ぐ最重要項目は、卒業生の大学へのアイデンティティーの問題だとこれまた新年挨拶で述べました。

前理事長の牛込氏も総会での退任挨拶の中で「本学の卒業生は国立大学の卒業生であるという意識が強すぎるのか、私学の卒業生に比較すると支援を強力にしているとはいえません。もっともっと大学に対する支援を意識するよう訴えねばなりません。」と述べておられます。

この問題は私の理事長としての最初のミッションになります。

まずは教育、研究環境の整備充実を目的とした大学基金への寄付の推進です。この基金は永続的なものです。機会あるごとに寄付をする慣習ができればと、またこの中でアイデンティティーも養われていくと考えています。

本総会でも寄付を受付ける場を設けました。この大学基金への卒業生の寄付の実績ですが、平成22年度は1件17,000円だったものが、平成23年度は118件3,657,000円と急増しています。こうして集まった時500円、1,000円とアットホームに寄付をする習慣が出来たらと思っています。

大学は大きく変わりました。私たちも新しく動こうとしています。大学及び名古屋工業会の一層の発展のため、会員の皆様の絶大なご支援をお願いし開会の挨拶といたします。



総会風景



表彰状と記念品

会 長 挨 拶

名古屋工業大学 学長
名古屋工業会 会長
高橋 実

学長の高橋で御座います。

本日は、名古屋工業会第46回通常総会が盛大に開催されることをお慶び申し上げます。

今年度は私の学長任期の中間点ともなります。この場をお借りして過去2年間の総括とこれから2年間の目標について触れさせていただきます。

学長就任直後からPCB廃棄ミスなどの事件や事故が続きましたが、今は教職員・学生合わせて約7,000人もいれば、トラブルがあるのは当たり前という気も致しております。

トラブルは相変わらずですが、大学改革は着実に前進を重ねて参りました。幾つか挙げますと、

1. 本学の長期的な行動指針となる「名古屋工業大学憲章」の制定と長・中期的な行動目標となる「総合戦略」を策定し、本年4月より司令塔とも言えるべき総合戦略本部を設置し、教育・研究活動の戦略的实施体制が整いました。
2. 教育関連では、名古屋市立大学薬学研究科との共同大学院博士後期課程「ナノメディシン科学専攻」を来年度に開設する予定です。
3. 研究関連では、外部資金や知財関連収入の大幅な増加、そして研究活動に関するマスコミ報道の増加など、この2年間は他大学と比較し、本学の研究成果が顕著に現れた時期でもありました。

また、次を見据えた教育研究活動を進めるために「高度防災工学センター」「次世代自動車工学教育センター」「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」「コミュニティ創成教育研究センター」の4センターを新たに開設いたしました。

4. 国際交流関連では、北京に本学初となる海外事務所を設置しました。また、マレーシア同

窓会の発足、欧州での大学連携の進展、幾つかの国際交流プログラムの獲得を受け、学生・若手研究者の海外派遣数も急増しています。

5 建物関連では、52・53号館、23号館の教育・研究棟の耐震工事に続いて大学会館の改修と名工大生協寄附によるコンビニ機能を備えたNITechマートが新築されました。

6. 工業会として何よりも関心が高い話題として、理事長からのお話にありましたように卒業生連携室を設置し、卒業生と新入生に対する生涯メールアドレスの付与による学生の名簿管理や名古屋工業会の会員の大幅増が実現しました。名古屋工業会から今年度より頂くことになる大学への寄付金は、教育研究活動、特に学生の海外派遣の支援を重点に充当する予定です。これとは別に卒業生からの大学基金（80周年事業、100周年事業を元にした基金）への寄付金も飛躍的に増加しており大変ありがたいことです。

なお、入試ならびに就職の状況は高い水準を維持しております。

次に今後2年間の目標ですが、

1. 最重点課題、所謂「一丁目一番地」として、複線教育、学部と大学院の一体的改革、6年一貫教育と状況により言葉を違えていますが、本学において国内のみならず海外の範ともなる工学教育の改革を断行したいと思います。経営協



議会や文部科学省からも本学の取り組みに対しては高い評価を得ており、新学部・新専攻の開設も視野に入れ、早くて平成27年度実施に向けて邁進する所存です。

2. 2つ目は広報体制の強化です。数年後に迫る18歳人口の持続的減少とそれに伴う入試対策、グローバル時代における国際交流の一層の活性化、本学の特徴とも言うべき産学官連携活動をさらに推進するためには、本学の優れた教育研究活動をアピールするブランド戦略が必須です。

3. 建物関係では、今年度から「窒化物半導体マルチビジネス創生センター」「スマートエネルギー研究棟」の新築に着手します。現状、何らかの対応が必要な大きな建物は本部棟と講堂になりました。講堂の改築につきましては工業会のご理解とご支援が必要になると考えています。

最後になりますが、国立大学を取り巻く状況、特に規模の小さい大学の中で、地方大学以上に

教育学部、工学部など単科大学系に対して、財務省、政界、財界、経済界等からの所謂「統廃合」の圧力は高まる一方です。しかし、より大きな視点で見れば、グローバル化時代における大学の新しいあり方の模索が世界に跨るうねりとなっています。最近、本学卒業生がシャープ、NTTドコモなどの社長に就任したことが報道されておりますように、過去100年有余における本学の誇るべき人材養成の目標とシステムをここで改めて再認識した上で、次の100年への改革が今問われています。本学としては、単科大学不要論に屈することなく、新しい時代に望まれる工学教育モデルを国内外に提示し、かつ実行することで工学を軸とした人類社会への貢献を果たしてまいります。

工業会には本学の改革へのより一層のご理解とご支援をお願いして、私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。ありがとうございました。



総会風景



懇親パーティー

平成24年5月26日

会員各位

社団法人 名古屋工業会
理事長 篠田 陽史

第46回通常総会報告及び決議ご通知

平成24年5月26日(土)開催の社団法人名古屋工業会総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

平成 23 年度事業報告

1. 組織改革に向けた活動

(1) 公益法人制度改革への対応

一般社団法人への移行認可申請に必要な改定定款案、関係規則案、公益目的支出計画案等を申請先の行政庁である愛知県と事前相談を行なう等の準備を行った。

(2) 財政基盤の充実

財政基盤の充実を図るため、大学に新設された卒業生連携室と密接な連携により、平成 24 年度新入生から全員入会を目指した諸納金制度を導入し、入会率の大幅な改善を図った。

2. 大学支援事業

(1) 教育・研究等支援

①教育支援として、第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。

②学生の就職支援の一環として、OB の企業トップによるセミナーおよび OB 講演会を開催した。

③名古屋工業大学の 4 名の教員に研究助成金を交付し、母校における教育研究の振興を図った。

④名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。

⑤理事長が名古屋工業大学諮問会議、学長選考会議及び基金運営委員会の委員として、また常務理事が基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。

⑥名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行い、大幅な増加となった。

⑦名古屋工業大学の定年退職教職員 14 名に、第 45 回通常総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(2) 学生支援

①名古屋工業会賞の贈呈

平成 24 年 3 月 23 日举行的名古屋工業大学学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生 22 名に対し、篠田理事長より工業会賞として表彰状並びに記念の時計を贈呈した。

②奨学金給付

平成 23 年 11 月 30 日に名古屋工業会館において奨学金の授与式を行い、篠田理事長より激励の挨拶の後日本人 12 名、外国人留学生 3 名の計 15 名に奨学金を授与した。

③名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。

④課外活動奨励金を 10 団体に、また工大祭には本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。

⑤フォーミュラプロジェクト及びソーラーカープロジェクトへの支援を行った。

⑥平成 24 年 3 月卒業の終身会員に祝意を表し、記念品を贈った。

⑦単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。

3. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 会員増強活動

①OB 未入会者への勧誘

1)各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。

2)各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。

3)企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。

4)本年度新規入会者 ()は前年度実績

終身会員 17(28)名、 年度会員 25 (27)名、 合計 42(55)名

②新入学生への勧誘

1) 未加入の新入生の保護者宛に、再度入会案内を送付し入会勧誘を行った。

2) 本年度新規入会者

終身会員 308(231)名、 学生会員 20(11)名、 合計 328(242)名

3) 平成 24 年度入学者から諸納金制度を開始したことにより、新入生の全員入会の目標達成に大幅に前進した。

学部入会者 922 名 90.9%(233 名 22.6%)

③在校生の勧誘

1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。

2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。

3) 本年度新規入会者

終身会員 5(8)名、 学生会員 10(11)名、 合計 15(19)名

④平成 23 年度末、OB 会員入会率； 21.6(21.4)%

対象者 56,599(55,528)名、 会員 12,225(11,903)、 終身会員 8,810(8,507)名、 年度会員 3,415(3,396)名

(2)活性化活動

①会員交流および広報活動

1) 会誌「ごきそ」を隔月刊行し会員に送付した。更に、3・4 月号は新入生に、5・6 月号は在校生の父兄に送付し、名古屋工業会の広報に資した。

2) ホームページの内容を随時更新し、内容の充実と即時性を高めると共に、メールマガジンを適時配信した。更にホームページを補完するため、各支部・単科会のホームページとのリンクを図った。

3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備を行うと共に、名簿の一元化に向けて大学と検討を行ない、平成 23 年度卒業生から大学が卒業生名簿を作成し、全学生に生涯メールアドレスを付与することとなった。

②支部活動

1) 全国各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。

2) 支部長会議を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

③単科会との連携

1) 工業会と単科会との連携等について検討するため、単科会との懇談会を実施した。

2) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④講演会の開催

1) 通常総会後に特別学術講演会を開催した。

講師：松野文俊 氏 京都大学工学研究科 教授

演題：「IT とロボット技術を基盤とした国際救助隊サンダーバードの構築を目指して」

⑤記念品の贈呈

1) 平成 21 年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、第 45 回通常総会にて記念品を贈呈した。

鈴木泰信 (K34)	旭日重光章	佐藤太英 (E32)	旭日中綬章
舩橋鉦一 (M28)	瑞宝中綬章	吉田昭二 (E35)	瑞宝中綬章
宮島 博 (D37)	瑞宝小綬章	山本富昭 (E23)	瑞宝中綬章
杉山道生 (K26)	紺綬褒章		

2) 卒業満 70,60,50 周年に該当する会員に、第 45 回通常総会にて記念品を贈呈した。

70 年一昭和 16 年卒 47 名、60 年一昭和 26 年卒 31 名、50 年一昭和 36 年卒 99 名

平成23年度収支決算書

(平成23年4月1日から平成24年3月31日)

1. 収入の部

[単位:円]

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	7,107,751	7,244,000	△ 136,249
(1) 財産利子収入	2,432,271	2,500,000	△ 67,729
(2) 会誌広告収入	550,000	500,000	50,000
(3) オフィス賃貸収入	3,056,480	3,200,000	△ 143,520
(4) 駐車場賃貸収入	1,044,000	1,044,000	0
(5) 寄附金収入	25,000	0	25,000
2) 入会金、会費収入	36,712,000	40,045,000	△ 3,333,000
(1) 入会金収入	177,000	300,000	△ 123,000
(2) 会費収入	6,520,000	8,500,000	△ 1,980,000
(3) 終身会費収入	29,845,000	31,095,000	△ 1,250,000
(4) 賛助会費収入	170,000	150,000	20,000
3) 雑収入	70,000	80,000	△ 10,000
4) 積立預金取崩収入	17,309,855	15,386,000	1,923,855
(1) 調査研究助成積立預金取崩収入	14,790,855	12,886,000	1,904,855
(2) 育英奨学積立預金取崩収入	1,500,000	1,500,000	0
(3) 減価償却積立預金取崩収入	1,019,000	1,000,000	19,000
収入の部合計	61,199,606	62,755,000	△ 1,555,394

注1 年度会費収入の減と5年間分の重複入金分の返金

注2 24年度新入生の終身会費収入は、今年度から24年度収入に変更する為

2. 支出の部

[単位:円]

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	49,973,834	51,385,000	△ 1,411,166
(1) 大学支援事業	16,638,212	16,646,040	△ 7,828
ア 教育研究支援	8,069,476	8,085,200	△ 15,724
イ 学生支援	8,350,175	8,323,000	27,175
ウ 教職員支援	218,561	237,840	△ 19,279
(2) 工業会の充実のための事業	29,710,466	31,212,590	△ 1,502,124
ア 会員増強活動	1,921,249	2,884,950	△ 963,701
イ 広報活動	14,896,328	15,032,890	△ 136,562
ウ 支部活動	11,826,177	12,010,220	△ 184,043
エ 講演会	127,589	129,700	△ 2,111
オ 会員慶弔	939,123	1,154,830	△ 215,707
(3) 収益事業	3,625,156	3,526,370	98,786
ア 駐車場賃貸	436,498	437,040	△ 542
イ オフィス賃貸	3,188,658	3,089,330	99,328
2) 管理費	10,118,272	10,220,000	△ 101,728
(1) 制度改革調査等経費	577,500	1,000,000	△ 422,500
(2) 総会経費	2,492,770	2,300,000	192,770
(3) 管理諸経費	7,048,002	6,920,000	128,002
3) 固定資産取得支出	1,019,000	1,000,000	19,000
4) 積立預金繰入支出	88,500	150,000	△ 61,500
(1) 入会積立預金繰入支出	88,500	150,000	△ 61,500
支出の部合計	61,199,606	62,755,000	△ 1,555,394

注1 諸納金制度の導入による経費の減

正味財産増減計算の部

平成24年3月31日

(1) 増加の部

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	建物増加額	871,500	
	什器備品増加額	147,500	
	減価償却積立預金増加額	2,593,356	
	入会積立預金増加額	88,500	
	退職給与引当預金増加額	1,000,000	
負債の減少	終身会費引当金減少額	23,845,000	
増加額合計		28,545,856	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	建物償却費	1,632,694	
	建物附属設備償却費	349,284	
	什器備品償却費	611,378	
	調査研究助成積立預金減少額	14,790,855	
	育英奨学積立預金減少額	1,500,000	
	減価償却積立預金減少額	1,019,000	
	終身会費引当預金減少額	23,845,000	
負債の増加	退職給与引当金増加額	1,000,000	
減少額合計		44,748,211	
当期正味財産増減額		△ 16,202,355	
前期繰越正味財産額		193,318,973	
期末正味財産合計額		177,116,618	

貸借対照表

平成24年3月31日

1. 資産の部

(単位:円)

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動資産	現金預金	316,440	
流動資産合計(A)			316,440
固定資産 基本財産	土地	26,150,730	
	建物	35,170,475	
	建物附属設備	1,897,653	
	什器備品	2,192,259	
	減価償却積立預金	58,446,966	
	入会金積立預金	23,152,500	
基本財産合計(B)			147,010,583
その他固定資産	調査研究助成積立預金	28,256,035	
	育英奨学積立預金	1,500,000	
	退職給与引当預金	5,650,000	
	終身会費引当預金	119,793,604	
	預入保証金	350,000	
その他の固定資産合計(C)			155,549,639
固定資産合計(D) = (B) + (C)			302,560,222
資産合計(E) = (A) + (D)			302,876,662

2. 負債の部

勘定科目		金額	
大科目	小科目		
流動負債		0	0
固定負債	貸借契約保証金	316,440	
	退職給与引当金	5,650,000	
	終身会費引当金	119,793,604	
固定負債合計(G)			125,760,044
負債合計(H)			125,760,044

3. 正味財産の部

基本金		147,010,583
当期正味財産減少額		16,202,355
正味財産(I)		177,116,618
負債及び正味財産合計(J) = (H) + (I)		302,876,662

財 産 目 録

平成24年3月31日

(単位:円)

(資産の部)		
I. 流 動 資 産		316,440
1. 現金預金	316,440	
流 動 資 産 合 計	316,440	
II. 固 定 資 産		65,411,117
1. 有形固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 建物 会館鉄筋4階建延646.88 m ²	35,170,475	
(3) 建物附属設備	1,897,653	
(4) 什器備品	2,192,259	
有 形 固 定 資 産 合 計	65,411,117	
2. その他の固定資産		237,149,105
(1) 普通預金(三菱東京UFJ銀行)	10,234,796	
(2) 定期預金(三菱東京UFJ銀行)	1,000,000	
(3) 当座預金(ゆうちょ銀行)	1,318,490	
(4) 金銭信託(みずほ信託銀行他)	245,819	
(5) 国 債 (大和証券他)	30,000,000	
(6) 公社債 (野村證券他)	194,000,000	
(7) 保証金 (八重洲倶楽部、セコム)	350,000	
その他の固定資産合計	237,149,105	
資 産 合 計		302,876,662

監 査 報 告 書

平成24年4月9日

社団法人 名古屋工業会

理事長 篠 田 陽 史 殿

監 事

清水益文 

監 事

伊藤要蔵 

社団法人名古屋工業会平成23年度事業報告並びに会計収支決算を詳細に監査したところ、諸帳簿・諸証票書類とも正確にて適正であると認めました。以上を報告致します。